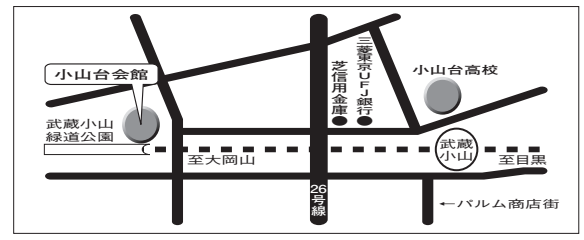
第35号
2011年9月30日 発行

小山台教育財団 会報

財団ホームページ再構築中
ホームページの利便性を高めるため
平成 24 年 4 月を目指して再構築中です。
http://www.koyamadai.or.jp



発 行 所　公益財団法人 小山台教育財団
〒142-0062　東京都品川区小山4-11-12
TEL 03(5721)6171　FAX 03(5721)6173
発 行 人　理 事 長　金 成 憲 道
編集担当　常務理事　松 丸 心 一

公益財団法人として新たな出発

理事長　金　成　憲　道

新公益法人制度下における財団の在り方について、法施行後２年半あまりの間、財団の設立経緯、趣旨、その当時のご父兄の方々の思い、それを引き継がれてきた先輩方のご苦労などを噛み締めながら、財団として検討してまいりましたが、このたびおかげさまで無事公益法人への移行につき東京都より認定をいただきました。これに従いまして、７月１日に移行登記を行い、公益財団法人として新たに発足する運びとなりました。ここに至るまでの、大澤前理事長はじめ、理事、監事、評議員、ご関係の方々、財団事務局など、実際の膨大な作業をこなしていただいた方々にこの場をお借り致しまして、改めて深い敬意と御礼を申し上げたいと思います。

さて、新しい財団は、今までの財団の活動を基本的に踏襲することになりますが、今までの活動を公益目的事業と共益事業の二つに区分けし、公益目的事業には国際交流事業、奨学育英事業、社会教育事業の３事業を含め、共益事業には学校教育事業、会館運営事業の２事業を含める形に整理致しました。小山台高校の教育活動に対する助成事業につきましては学校教育事業の柱として引き続き継続されるわけでございます。また公益事業の対象としましては、過去の実績を踏まえ、小山台高校に品川区にある都立高校２校を加えた形になっております。

公益財団に認定されたことは、今までの財団の活動そのものが高い公益性を有するとご評価頂き、引き続き税制面での優遇措置を頂いたわけでありますす。特に公益目的事業の３事業につきましては、従来から事業部会の方々が献身的なご努力をされてこられ、それらの方々の熱意と熱気が財団全体のカルチャーを構成してきており、財団全体に浸透しているわけであります。

この６月に、大澤前理事長よりバトンを受け取らせて頂き、まさにその伝統と責任の重さを痛感しているところであります。冒頭に申し上げましたごとく、このような伝統ある財団を、ここに至るまでの諸先輩がたのご苦労を思いながら、一方で大いに誇りを持ちつつお引き受けし、地道にかつ着実に活動してまいる所存であります。これからの活動につきましては、以上申し上げた基本を原点として、公益法人としての小山台教育財団を更に発展させるべく、皆様の力を得ながら一歩一歩進めてまいりたいと思いますので、引き続き皆様の厚いご支援を賜りますようよろしくお願申し上げる次第でございます。（小山台 昭和40年卒）

小山台教育財団の船出

前理事長　大　澤　佳　雄

財団法人小山台の運営を５年間お預かりして参りましたが、この６月に金成憲道さんにバトンをお渡しすることが出来ました。数え切れない多くの皆様方のご奉仕、ご尽力によって、この財団法人の諸活動が大変意義のあるものになっていることをまさに実感いたしました。財団の活動を支えてきてくださった皆様方に心からのお礼を申し上げます。

武蔵小山の狭隘な敷地でプールも体育館もなかった「八中」。これでは若人の全人格的な教育は難しいということで、保護者の皆さん方が戦後間もなく学校の隣接地を買い上げ寄付されたことから、この「財団法人小山台」の基本財産の礎が出来たことはご承知のとおりです。まだまだその後の日本の奇跡といわれる発展がまったく見えなかった時代、誰しも食べることだけで精一杯だった時代にその事を決め、しかもまとまった土地を購入するということの難しさは想像を超えるものです。子供たちの世代に将来を託された当時の保護者の皆様の強い「志」には頭が下がるばかりです。

その志に背くことの無いようにとの脈々たる諸先輩のご努力によって、今日の財団は、若者たちの全人格的な教育のお手伝いを中心に、「生涯教育」にもその活動を広めてまいりました。福川前理事長の肝いりの「寺子屋小山台」も明日のリーダー育成を目指し、すでに今年は６期目に入るところです。寺子屋らしく講義ばかりでなく、講師を交えた時間の経つのを忘れてのフリーなディスカッションが素晴らしく、日本の解決すべき課題を等身大のところまで引き寄せ明日からの自らの行動に結びつけているのです。メディアなどで「閉塞感」を植えつけられている私たちも、大いに勇気付けられるところです。

ご承知のとおりこの７月に「財団」は「公益財団法人 小山台教育財団」として再発足することになりましたが、関係当局のご理解を得て「公益性」の認定についても、これまでの活動を大きく変えることなく新体制に移行することが出来ました。しかしながら、これからも「開かれた公益活動」を大いに強化していくべきという考え方も当然あるわけで、こじんまりとした愛校心だけでは、直接、間接を問わずグローバルな行動が求められる次の世代をになう若者たちを育てられないことは自明といっても過言ではありません。あらたな船出がこのような議論のきっかけとなればと願ってやみません。
（小山台 昭和34年卒）

７月１日、公益財団法人小山台教育財団（略称：財団小山台）に

事務局長　松　丸　心　一

新公益法人制度の施行後２年６か月が経過した６月22日に、東京都より移行認定通知書を受領し、移行登記を７月１日に行い、公益財団法人になりました。

名称も「小山台」より、事業内容を表している「小山台教育財団」にしました。

新しい評議員11名、理事10名及び監事３名を中心とした体制で財団小山台を運営していきます。公益財団法人では、評議員並びに監事の任期は４年になりました。理事の任期は従来通り２年です。また、業務執行理事として、金成理事長、山崎副理事長、増田副理事長及び松丸常務理事の４名を選任しました。

４月より、事務局も３名の職員と２名の業務委託契約者で運営を円滑に行うとともに管理費の削減を図っています。火曜より土曜まで９時より18時までを勤務時間とし、利用するお客様の利便性を向上しました。月曜並びに利用されるお客様のいない日は休館としました。

振り返れば、昭和38年に財団法人小山台は設立しました。平成２年に財団所有地の売却により、多額の基本金を得て、この金利収入で各種事業を展開してきました。10年国債の金利の著しい低下により、運用収入（事業活動収入）は大幅に減少しています。一方、事業活動支出はほぼ同一水準で推移しています。平成17年度より６年間で、正味財産を96百万円減少させています。平均毎年16百万円減少させていることになります。平成24年度よりは、収支バランスのとれた事業計画を立案し実行していきます。収入に見合った支出（事業費＋管理費）計画を立てることが、最重要課題と考えています。公益財団法人になり、税制の優遇を享受できることは、支出計画に余裕を生んだことは確かです。

公益財団法人への移行認定申請にあたり、公益目的事業として3事業、その他事業として2事業に組替えを行いました。

①国際交流事業～品川区にある都立高等学校生徒及びその卒業生である大学生の国際相互理解教育の推進に関する事業
②奨学育英事業～品川区にある都立高等学校生徒を対象とする奨学・育英に関する事業
③社会教育事業～品川区にある都立高等学校生徒、PTA 及び卒業生並びに品川・大田・目黒の区立中学校生徒及び３区民等に対する生涯学習の推進及び文化の向上に関する事業
④学校教育事業～都立小山台高等学校の総合的な教育活動に対する助成
⑤会館運営事業～会議室等財団施設の管理運営に関する事業

平成25年６月には、創立50周年を迎えます。２年後までに、公益財団法人としての礎を築きたいと思います。今後とも、関係各位のご協力・ご指導をお願いします。
（小山台 昭和43年卒）

第19回英国語学研修（7月30日～8月15日）

リーダー　山川 貴之

私たち英国語学派遣団は、イングランドの南海岸にあるボーンマスに２週間ホームステイをしながら Kings college という語学学校へ通いました。

ホームステイでは、必然的にホストファミリーと英語でコミュニケーションをとらなくてはいけません。家のルールを聞くのも、今日の出来事を伝えるのも、夜出かけることを伝えるのももちろん英語です。また、新しい環境での生活も大変だったと思います。身の回りのことは自分でやらなくてはいけないし、食事など慣れないものがたくさんあったからです。

語学学校では皆それぞれに授業を通じて外国人の友達を作って楽しく過ごしていました。私は学校に行く一番の意義は授業を受けることではなく友達を作ることだと思っています。楽しく英語を使って、伝わった時の嬉しさや伝えられない悔しさを感じることができるからです。

最初は不安を抱えていた人も多くいましたが、最後はもっと長くいたいという人がほとんどでした。それは皆が、苦難はあったけれど楽しめたということです。

皆が成長でき、さらに楽しめた今回の派遣は本当に意義のあるものでした。

英国の地で灯籠流し

英国交換留学（7月30日～8月15日）

リーダー　清水 彩那

語学研修とは異なり、学校に通わないで過ごすブリッドポートでの２週間は、壮大な自然と触れ合いながら現地のメンバーと共にその家庭の一員として過ごすことの出来る貴重な時間でした。海、山、牧場、岩、川、湖、星、動物…、毎日これらの自然のものたちと関わりながら生活するということは日本では経験したことのないどころか、日本では経験出来ないようなことばかりでした。

そんな有意義な生活を支えてくれたのが、私たちのことを想ってくれるリーダーやパートナー達、ホストファミリーの皆さんの温かい心遣いでした。１日１日の内容がとても濃く、これでもか！という程に毎日いろいろな経験をさせてもらえたことにとても感謝しています。またブリッドポートは交換留学研修なので今年私たちがお世話になったパートナー達が来年日本に来るという２年越しのプログラムです。本当にお世話になったパートナー達のためにどんなことをしたら喜んでもらえるか、何をしたら今年の恩返しが出来るかなど今から考えてしまい、本当に来年が待ち遠しいです。

ブリッドポート市長を囲んで

一言が通じた喜びと自信

随行員　飯島 裕実子

英国派遣団結団式

私は10日間ボーンマス語学派遣の学生に同行させて頂きました。

キングススクール初日は皆不安もあって、表情も固かったですが、２日目からは外国の友達を誘い合い、公園でランチしたり伸び伸びとエンジョイしていました。

リーダーの山川君は添乗員の小川さんと協力して皆を楽しませようと、様々な外出イベントを企画し、ビーチや郊外へ出かけていました。実際に街並みを歩くことで、イギリスの生活環境、異文化習慣への理解も深まっていったと思います。

また、リーダーをサポートしようと大学生が高校生を気遣い、また高校生も大学生をとても信頼していました。チームとしてとてもまとまりがあり、みんなとても仲良しでした。

確信を持って言えることは、26人全員が、自分のペースでイギリスの地で「一所懸命に」成長を遂げたということです。

勇気を持って口に出して話した一言。その一言が通じた喜びと自信。その積み重ねから交流すること、そして英語を学ぶことの楽しさを感じてくれたのではないかと思います。

語学派遣の意義を改めて痛感した10日間でした。

環境科技大学の皆さんと

第5回台湾派遣を終えて（4月16日～4月23日）

リーダー　松尾 一志

私は今回で台湾派遣に参加したのは二度目ですが、二つの目標を持っていました。一つ目は今回初めて参加した派遣生に台湾を好きになってもらいたいという目標です。この目標はすぐに達成されました。台湾で出迎えてくれた学生たちは私たちを旧友であるかのように歓迎してくれ、言語から文化に至るまで丁寧に教えてくれたからです。二つ目は私自身、より多くの台湾人と接したいという目標です。この目標も達成することができました。今回の派遣では台湾の学生だけではなく、環球科技大学の多くの先生方も私たちを歓迎してくださり、頻繁に私たちと接してくれました。先生方と話している中でいかに台湾の人々が日本に対して期待をしてくれているか、そして今後も親密な関係であり続けたいと思いを寄せてくれているかを感じました。

この環球科技大学の学生、先生方との繋がりは５回の台湾派遣を経て築かれてきたかけがえのないものです。この素晴らしい関係を後輩に伝えていくこと、これが私の次なる目標です。本当にありがとうございました。

平成23年度　国際交流事業参加者

英国語学研修派遣団（25名）　◎印リーダー

	伊東 夏葉	女	小山台高校全１年
	扇浦 孔大	男	小山台高校全１年
	小畑 莉央	女	小山台高校全１年
	加瀬谷 美結	女	小山台高校全１年
	金澤 榛乃	女	小山台高校全１年
	金谷 美里	女	小山台高校全１年
	小林 鮎奈	女	小山台高校全１年
	島崎 加奈子	女	小山台高校全１年
	鈴木 美和子	女	小山台高校全１年
	堀 翔一朗	男	小山台高校全１年
	山下 佳奈	女	小山台高校全１年
	山中 久瑠美	女	小山台高校全１年
	岡本 若菜	女	小山台高校全２年
	澤田 玲奈	女	小山台高校全２年
	関 寿恵	女	小山台高校全２年
	冨田 燿志	男	小山台高校全２年
	橋爪 仁沙	女	小山台高校全２年
	内藤 洋紀	男	小山台高校定４年
	片岡 大河	男	東京工業大１年
	横倉 彰祐	男	中央大１年
	黒田 英利	女	青山学院大２年
	三戸 康平	男	慶応義塾大２年
	森 希衣	女	立教大２年
	古西 杏里	女	明治大３年
◎	山川 貴之	男	上智大３年

英国交換留学派遣団（7名）　◎印リーダー

	一丸 謙志郎	男	小山台高校全１年
	高橋 柚香里	女	小山台高校全１年
	山森 明子	女	小山台高校全１年
	嘉田 浩	男	小山台高校全１年
	山本 千遥	女	独協大２年
	白井 瑞穂	女	明治学院大３年
◎	清水 彩那	女	明治大３年

台湾交流派遣団（9名）　◎印リーダー

◎	松尾 一志	男	慶応義塾大３年
	生川 智加	女	早稲田大２年
	木村 彩子	女	横浜市立大２年
	渋谷 友里香	女	上智大２年
	長岡 彩香	女	早稲田大２年
	堀井 美沙	女	千葉大２年
	浦野 陽介	男	明治大３年
	工藤 桃枝	女	早稲田大３年
	西辻 憲一	男	東洋大３年

躍進する小山台高校

副理事長（小山台高校 校長） 山崎　茂

いつも小山台高校をご支援いただきありがとうございます。そのご支援のお陰もありまして、小山台高校は今、伸びている学校として注目されています。今春の大学入試結果は、20年ぶりに国公立大学への合格者が60名を超え、難関私立大（早慶上智）の合格者も70名を超えました。21年度、22年度を見ますと、それぞれ国公立が41，45名、難関私立大が53，58名ですので毎年伸びてきていることがわかります。もちろんかつての東工大全国１位といった数字には届きませんが、難関国公立大学への合格者も増加傾向にあります。しかも、班活動や学校行事の活発さを維持しながら高いレベルの文武両道を実現しつつあるわけです。そんなところが評価されているのか、本校を志望する中学生も年々増えています。

一方、定時制は１，２年が３学級編成となり今年度は10学級でスタートしました。この２年ほど生徒数が増えたこともあり、テニス班の男子生徒が東京チームの代表として全国大会に出場しベスト８になるなど、班活動も活性化しています。今後とも小山台の応援よろしくお願いいたします。

ご　挨　拶

副理事長　増田 次郎

副理事長就任に際し一言ご挨拶申し上げます。

当財団は特例民法法人から公益財団法人へと組織移行が為され、事業の公益性が求められることとなりました。その点はしっかりと踏まえて事業展開をして行かなければなりませんが、併せて、当財団の設立以来の目的であった小山台高校の支援ということも、共益事業として、今後も変わらずに進めて行けることも理解しておきたいと思うところです。

さて我が国は、諸外国から「日本化」とも揶揄される失われた20年の後遺症と東日本大震災・原発事故の衝撃により、国家浮沈の瀬戸際に立たされており、この重大局面は長期間続くことでしょう。

この時にあたって、将来の日本を力強く背負い、復興と新たな繁栄を目指して、長期ビジョンの下に、若い有為な人材を多数育成して行くことが極めて重要なことであることは言うまでもありません。

ここに、このたび教育財団として一新した当財団の役割があるのではないでしょうか。当財団は国際交流事業などを通じて、その役割をしっかりと果たして行きたいと思います。皆様のご協力をお願い致します。

評議員会長をお引き受けするに当たって

評議員会長　大橋　学

監督官庁である東京都からの認定取得により公益財団法人として再出発することとなり、旧財団事業にいろいろな形で関らせていただいた者として大変うれしく存じます。認定取得に向けて議論を重ねてこられた関係者の皆様、そして事務局のご尽力に感謝を申し上げます。

定款にあるように、国際交流事業をはじめとする旧財団の主要事業の多くは公益目的事業として、一部はその他の事業として継続されます。これまで事業の継続と発展にご尽力されたOB・関係者の皆様の熱い思いが今後も財団活動に生かされることを願っています。教育理念には教育の機会均等が含まれておりますので、公益財団になっても財団の教育理念に変わりがないことは、事業に携わってこられた皆様がすでに実感されていると思います。

評議員会長をお引き受けするに当たり、評議員会が定款に定められた機能を果たし、主要な事業および財団の運営が理念に沿って正しく行なわれている事を確認し、理事会への適切な助言ができるよう評議員の方々とともに情報収集・自己研鑽に努めてまいります。また評議員会の運営にあたっては評議員の方々のご協力をいただき、自由闊達な議論と建設的な合意を目指したいと思う次第です。

平成22年度事業報告

23年3月東日本大震災と福島原発事故が発生し、日本は未曾有の危機に直面している。このため、年度末に予定されていた台湾研修、文化教室、ブラスバンド班の公開市民コンサートが中止延期（４百万円）となった。

事業活動支出は122百万円（予算130百万円）となり、投資活動収支を合わせた単年度の総合収支は▲17百万円（予算▲23百万円）、次期繰越金は89百万円となった。

この収支状況が続くと、４年で繰越金はなくなる見込みであり、収支バランスのとれた事業に再編することが急務となっている。

22年度に実施した事業の主な概要は次の通りである。

１．国際交流事業

①海外派遣・受入事業

イ．英国語学研修派遣（第18回）

期間　平成22年７月31日より８月20日までの21日間

人数　高校生17名、大学生８名　合計25名

英国ボーンマスの家庭にホームステイしながら、語学学校（キングスカレッジ）に２週間の短期留学をし、語学の授業を受講しながら世界各国の青少年との交流を行った。

ロ．ドイツとの交換留学生派遣（第9回）

期間　平成22年７月30日から８月19日までの21日間

人数　高校生７名、大学生３名　合計10名

ベルリン市のカニジウス校との提携による相互交流事業で、ホームステイによる派遣と受入を隔年に行うもので、平成22年度は派遣の年であった。学生の家庭にホームステイをしながら幅広い交流を行なった。

ハ．英国ブリッドポート・ミドルスブロウとの交換留学生受入（第6回）

期間　平成22年７月29日より８月18日までの21日間

人数　ブリッドポート生徒６名および引率者１名　計７名

ミドルスブロウ生徒３名および引率者１名　計４名

英国ブリッドポート市のNPO団体とミドルスブロウ市のカレッジの提携による相互交流事業で、ホームステイによる派遣と受入を隔年に行うもので、平成22年度は受入の年であった。交換留学派遣した学生の家庭にホームステイをしながら町田市の大地沢青少年センターでのキャンプ、都立小山台高等学校で剣道及び茶道の班活動の体験、京都、奈良、広島での文化、宗教、平和教育等を通して、青少年との交流を行なった。

ニ．台湾交流派遣（第5回）

平成23年３月13日より台湾交流派遣を行う予定だったが、東日本大震災の直後の出発だったため延期となった。

②海外研修助成

他団体の主催するアジア地域およびアメリカ合衆国等への短期研修に参加を希望する学生に対し、その内容等を審査した上でその費用の一部を助成した。

２．奨学育英事業

イ．一般奨学金

小山台高校生13名、旧第１学区内都立高校生14名、合計27名の生徒に対して１名につき月額15千円を10カ月計150千円、合計3,915千円を給付した。

ロ．緊急奨学金

家計状況の急変等で緊急に援助が必要になった小山台高校の生徒または、小山台高校以外の学校の生徒にも特別給付体制をとったが申請はなかった。

３．社会教育事業

①公開文化講座の開催

市民向け文化講座を目的として、年間８回の公開文化講座を開催した。

いずれも大変内容のあるもので歓迎された。

②寺子屋小山台の開催

プレ講座を含め８回開催し、著名な講師を招いて青年層の次世代を担うリーダー養成講座を行った。

４．学校教育事業

①小山台高校の教育活動への助成

衛星放送授業費、講習教材費、運動会費、合唱コンクール費等の助成を行った。

②中学校向け事業への助成

小山台高校が近隣の中学校の生徒に対して行なった各種講習会費用を助成した。

５．会議室・ホール等財団施設を運営

教育関係の会議会合の利用を主としつつ、近隣住民にも役立つ施設として貸出し、この会館を青少年の育成や社会公共の教育に貢献する拠点として活用した。

６．広報活動

財団の会報を９月に発行し、事業内容をホームページに公開した。

平成23年度事業計画

国際交流事業、奨学育英事業、社会教育事業および学校教育事業をコア事業とし、引き続き青少年の育成のための事業を優先的に行う。

１．国際交流事業

青少年時代に日常の生活から離れて、人種や国籍の異なる人々と出会い、友情を育み、異文化に直接触れること、更にそれらを通じて自分の意見をはっきり言う積極さを学ぶことは、これからの人生にとって得難い体験であることはいうまでもない。その目的実現のため国際交流事業を当財団の最大の柱としている。

①海外派遣・受入

イ．英国語学研修派遣（第19回）

英国のボーンマスでホームステイをしながら、キングズ・カレッジに２週間留学し英会話研修を行うと共に、世界各国から来ている青少年との交流を深める。

期間　平成23年７月30日から８月19日まで、21日間

人数　高校生、大学生 計26名

ロ．ブリッドポート交換留学派遣（第7回）

ブリッドポートのNPOとの提携による相互交流事業で、ホームステイによる派遣と受入を隔年に行うもので、今年は派遣の年となる。ホームステイをしながらホストファミリー及び青少年との交流を行う。

期間　平成23年７月30日から８月19日まで、21日間

人数　高校生、大学生 計７名

ハ．ドイツ交換留学受入（第9回）

ベルリン・カニジウス・ギムナジウム校との提携による相互交流事業で、ホームステイによる派遣と受入を隔年に行うもので、今年は受入の年となる。ドイツの学生をホームステイで受入れ、ホストファミリー及び受入学生との交流を行わせるが、その間京都、奈良、広島の見学等を行う。

期間　平成23年７月24日から８月12日まで、20日間

人数　ドイツ学生10名および引率者１名、計11名

ニ．台湾への学生派遣（第6回）及び受入（第3回）

アジアとの交流を目的して台湾中部斗六市の環球科技大学との提携による相互交流で、今年度は第6回の派遣、第3回の来日交流となる。

派遣　期間　平成24年３月　８日間

人数　大学生10名

受入　期間　平成23年11月頃　７日間程度

人数　大学生15名程度

②海外研修助成

適正な他団体の海外研修派遣に参加を希望する大学生に、その内容を審査した上でその費用の一部を助成する。

２．奨学育英事業

①通常奨学金

品川区にある都立高校３校（小山台、大崎、八潮）の全日制、定時制の生徒を対象に36名を限度に支給する。支給は４月から翌年１月までの10ヶ月間合計15万円とする。

②臨時奨学金

品川区にある都立高校３校（小山台、大崎、八潮）の全日制、定時制の新入生（１年生）を対象に16名を限度に支給する。支給は９月から翌年１月までの５ヶ月間合計7.5万円とする。

３．社会教育事業

①公開文化講座

年８回開催して、広く一般都民に公開する。

②寺子屋小山台

年8回開催して、ニューリーダーの育成を図る。

③新規事業として、英会話講座、年金講座を行う。

④中学校事業への助成

小山台高校の班活動を通じて行う中学生及び指導教員のための技術講習会を支援する。

４．学校教育事業

都立小山台高等学校への助成として、学力向上活動、学校行事、班活動、学校PR等の助成を行う。

５．会館運営事業

教育関係の会議･会合、文化教室、研究会、展示会、近隣住民の会合等、社会公共のために使用する団体等に貸出しする。

６．広報活動

会報（年１回９月）、ホームページによる広報活動を行う。

感　　謝

杉　山　　元

去る６月の定例理事会をもちまして２期５年間勤めました常勤理事を退任いたしました。この間大変多くの方のご協力を賜りまして無事大任を果たすことができましたことにつき本紙をお借りして厚く御礼申しあげます。

振り返りますと創立30周年の記念式典に参加したのが財団との最初のかかわりで、その頃は予算経理と広報の委員を務めておりましたが、間もなく広報委員長の大役を浦野氏の後任としてお引き受けすることになり、財団会報の６号から11号まで編集人を務めました。その後会報25号まで田中三雄氏、椎野宏子氏のもとで広報委員を務め、以後監事、評議員などを歴任いたしました。

平成18年、常勤理事の後任に推薦され、とてもその任に堪えない旨固辞しましたが結局お受けすることになり、久しぶりに会報の編集にも携わることになりました。最近の最大の問題は新公益法人法による公益認定を受けることでした。認定が受けられず一般法人になりますと毎年多額の税金の支払いのみならず、いずれ全資産を消費する事態にされるのではないかという危機でしたが、幸い事務局の努力で認定を得ることができました。長い間財団のお世話になりましたが、私にとって大変有意義な経験であったと思っています。今後の財団の発展を心よりお祈りいたします。

がんばれ、小山台

飯　塚　洸　子

初めに、部外者の私が監事という要職を5年もの長きにわたり、無事に務めさせて頂けましたことは、関係各位の暖かいご支援とご理解の賜物であったと、心より御礼申し上げます。

思えば、当初は、大澤理事長を除き、各委員方のご経歴なども全く分からない中、「わが命、わが母校小山台」と熱っぽく議論する皆さんに違和感もありました。ところが、日を追うに従い、財団の様々な活動や、校長先生による進学状況の報告、在校生のサークル活動の現状などを聞くにつけ、すっかりその雰囲気の中に自分がとけ込んでいるのに気づき、月に一度の会議が待ち遠しい気持にさえなって参りました。特に、公益法人への移行をめぐる議論では、関係者一同の母校への燃える情熱、熱意に引き込まれ、気がつけば私もその渦の中で真剣に考えており、目的を達成したときは、我がことの様に喜びました。

昨年、英国語学研修の高校生たちに同行し、彼らが未体験の日々へ果敢に挑戦していく姿に接することも出来ました。このような機会を若者に与えることが正に「公益法人」の事業であると再認識しました。その時の25名の若者とのキングスでの笑顔溢れる写真を見るにつけ、彼らの輝く未来と財団の発展を祈らずにはいられません。

今後は陰ながら財団の発展を見守って参りたいと思っております。

平成23年度 公益財団法人 小山台教育財団役員一覧

理　事（10名）
金　成　憲　道
山　崎　　茂
増　田　次　郎
大　川　洋　二
杉　原　民　夫
保　科　正　一
近　藤　和　子
佐々木　千　晶
有　田　　聡
松　丸　心　一

監　事（3名）
山　本　　隆
髙　橋　節　男
細　本　孝　司

評 議 員（11名）
大　橋　　学
片　寄　眞理子
武　田　雄　一
野　田　悌　二
増　田　　恵
平　松　　享
工　藤　長　男
上　野　由美子
栃　谷　圭　子
糸　瀬　敬　一
峯　岸　　誠

貸 借 対 照 表

平成23年6月30日現在　（注）本表は監査前の資料を基にしています

〈資産の部〉

科　目	金　額
流動資産	
預貯金	96,733,976
固定資産	
基本財産	
有価証券	6,311,136,936
預貯金	41,895,104
土地	652,150,000
建物	260,604,960
特定資産	
退職給付引当資産	1,465,000
事業拡大積立資産	100,000,000
その他固定資産	
什器備品	15,329,856
資産合計	7,479,315,832

〈負債・正味財産の部〉

科　目	金　額
流動負債	
源泉税等預り金	977,678
固定負債	
退職給付引当金	1,465,000
負債合計	2,442,678
指定正味財産	0
一般正味財産	7,476,873,154
内基本財産への充当額	7,265,787,000
内基本財産以外への充当額	211,086,154
正味財産合計	7,476,873,154
負債および正味財産合計	7,479,315,832

正 味 財 産 増 減 計 算 書

自 平成23年4月1日　至 平成23年6月30日　（注）本表は四半期分の記載となっています

〈増加原因の部〉

科　目	金　額
基本財産運用収入	26,648,183
運用財産運用収入	687
負担金収入	6,025,500
雑収入	600,978
合　計	33,275,348

〈減少原因の部〉

科　目	金　額
事業費	18,932,406
管理費	5,013,056
合　計	23,945,462

当期正味財産増減額	9,329,886
前期繰越正味財産額	7,467,543,268
期末正味財産合計額	7,476,873,154

(6/30)

平成23年度　寺子屋小山台の日程

土曜日　13時30分～17時、会場は小山台会館

日程	テーマ	講　師（敬称略）
プレ講座(8/27)	「受講生に望むこと」 「自分が源泉」というあり方	福 川　伸 次 鈴 木　　博
第一回(9/10)	「リーダーシップ論」	小 島　章 伸
第二回(10/8)	「国際貢献」	北 野　尚 宏
第三回(10/29)	「米国から見た日本」	高成田　享
第四回(11/19)	「日本の政治」	西 川　孝 純
第五回(12/17)	「経済トピックス」	大 澤　佳 雄
第六回(1/14)	「中国から見た日本」	朱　　建 榮
第七回(2/4)	「これから日本はどうすべきなのか」	福 川　伸 次
第八回(2/25)	成果発表	受講生が主役

受講は、〆切りました。

平成23年度　公開文化講座の日程

土曜日　14時～16時　原則会場は小山台会館

日　程	講　師（敬称略）	内　　容
5/14（土）	野口　ちよ子	「ボイストレーニングの実践」
6/11（土）	矢 島　里 佳	「22歳、なぜ起業という道を選んだか？」
6/25（土）	青 山　　明	「日本におけるミュージカルの発展の秘密」
7/ 2（土）① 10/ 1（土）②	清水　多江子	「ヨーガ体験」一緒にヨーガを①、②
※10/ 8（土）	手島　宗太郎	「歴史散歩」【講演】 スカイツリー「押上界隈の歴史散歩」
10/22（土）	手島　宗太郎	「歴史散歩」【散歩】 スカイツリー「押上界隈の歴史散歩」
※11/ 5（土）	阿部　昭三郎	「生きる」ことで野生動物から学ぶことがある
※11/26（土）	大 塚　修 造	「レクチャー・コンサート」

※募集中

編集後記

当財団は７月に公益財団法人への登記を行い、名称も新たに「小山台教育財団」となり、大きな再出発の年となっています。多くの方々の長年に渡る準備が実を結び、設立以来の目的である「青少年の国際相互理解教育を推進すること並びに東京都立高等学校生徒の健全な心身の育成を増進するとともに、広く社会公共の教育及び文化の発展に寄与する」役割に向けて一段とパワーアップすることになりました。

主要な事業活動を支える小山台会館の活用促進と同時に、コミュニケーションツールに関するIT活用も今後のテーマになると思います。この会報を含め、財団と、関連する人々の円滑な情報交換の場を多様なメディアへ拡大し充実させていきたいと思います。　（編集担当　森　正裕　小山台 昭和43年卒）